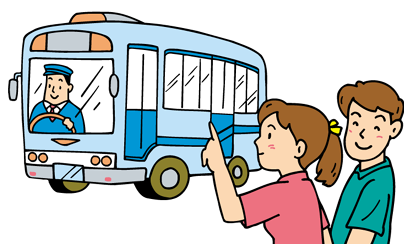


「衣類のゆくえを知る親子バス研修」

# 実施報告書

実施日：平成 22 年 8 月 5 日（木）



衣類(特に化繊)を焼却すると倍の重さの二酸化炭素が発生します。

松山市を含む多くの自治体では、衣類は「可燃ごみ」です。

衣類(古着)のゆくえには、「燃やす」以外の方法はないのでしょうか？

そんな素朴な疑問から「衣類のゆくえ」を探す旅が始まりました。



主催：衣サイクル研究会

後援：松山市

この研修は、環境省「平成 22 年度循環型社会地域支援事業」の助成により実施いたしました。

# タイムスケジュール

時 間	内 容	備 考
8:30 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ 10:15	松山市駅前 出発 ●オリエンテーション (挨拶・自己紹介ほか) 石鎚SA／トイレ休憩 ●ミニ研修「衣類のゆくえ」 豊浜SA／トイレ休憩 ●注意事項説明 有限会社田代商店 着	
10:15 ↓ 11:25	有限会社田代商店 見学 ●衣類の「リユース」「リサイクル」 出発	
11:30 ↓ 11:50	とらおファクトリー観音寺店 見学 ●衣類の「リユース」 出発	
12:00 ↓ 13:00	かんぽの宿観音寺 ●昼食 会議室へ移動	
13:00 ↓ ↓ 14:35	ワークショップ ●衣類の資源化工程のふりかえり ●自由研究のポイント説明 ●各自での制作	
14:40 ↓ ↓ ↓ 16:30	かんぽの宿観音寺出発 ●車内にてふりかえり(感想ほか) 石鎚SA／トイレ休憩 ●DVD上映「ガイアの夜明け」 松山市駅着～解散	



ワークショップ風景

# 事業について

この事業は、環境省の「平成 22 年度循環型社会地域支援事業」を衣サイクル研究会が受託し実施したものです。

## ●環境省の「平成 22 年度循環型社会地域支援事業」

環境省では、NGO・NPO や事業者が地方公共団体と連携して行うリデュース、リユース、リサイクルやグリーン購入などの循環型社会の形成に向けた取組で、他の地域のモデルとなるような創意工夫に優れた事業を公募し、実証事業として実施することにより、循環型社会の形成に向けた地域からの取組を促進することとし、本事業を開始しました。平成 22 年度は、全国から 32 件の応募があり、外部学識経験者による審査の結果、7 件の事業を採択しました。

### 衣サイクル研究会の受託事業

「衣類」も「人」も地域で活かされ循環する、持続可能な市民参加型ソーシャルビジネス実証実験(環境と福祉のコラボ)	家庭、NPO、障害者共同作業所、企業、地方自治体が連携しながら、古着のリメイク、リペアの技術や「服育」の知識を習得するための講座等を開催し、家庭に眠る古着の回収と販売の取組を市全域に拡大する。 ・リメイク、リペア講座の開催 ・モデル店舗での試験販売 ○夏休みの自由研究をテーマとした衣類の行方を追いかける親子バス研修の実施 ・「服育」セミナーの実施
---	--

## ●衣サイクル研究会

家庭で眠る衣類を燃やさないことでの「地球温暖化防止」を目的に平成 21 年 4 月 22 日の「アースデイ(地球の日)」に発足しました。主に下記の事業を進めています。

- ・衣類の回収事業(Cloth Your 愛「衣類の試験回収」)
- ・環境啓発事業(回収場所での環境啓発ほか)
- ・環境学習事業(学校や地域での講演活動・出前授業)
- ・自治体への「衣類の資源回収」の提案



衣類の回収



環境学習の実施



啓発展示

# オリエンテーション

- ① 関係者の紹介を行いました。

衣サイクル研究会 (P. 2 参照)

財団法人日本環境衛生センター

Web サイト「Re-Style」

循環型社会におけるライフスタイルは、リデュース (Reduce : 発生抑制) ・ リユース (Reuse : 再使用) ・ リサイクル (Recycle : 再生利用) の実践にあり！この3つの (Re-) をリ・スタイル (Re-Style) として提唱・推進するための、新しいコミュニケーション・チャンネルが、Web サイト「Re-Style」です。

- ② 事業の概要を説明しました。(P. 2 参照)

- ③ 配布物の確認を行いました。なお、配布物は、家族分ごとに「マイバッグ」に入れ、受付段階で渡しました。

「研修のしおり」・・・全員

「名札(食券)」・・・全員

「3R まなびあいブック」・・・児童・生徒のみ ※環境省製作のもの

「アンケート」・・・全員 ※集計結果はP. 参照

「風船」・・・全員

- ④ タイムスケジュールの説明を行いました。(P. 1 参照)

- ⑤ 参加者自己紹介を行いました。(裏表紙の名簿参照)



CO2 量を風船で表現しているところ

## ミニ講座「衣類のゆくえ」

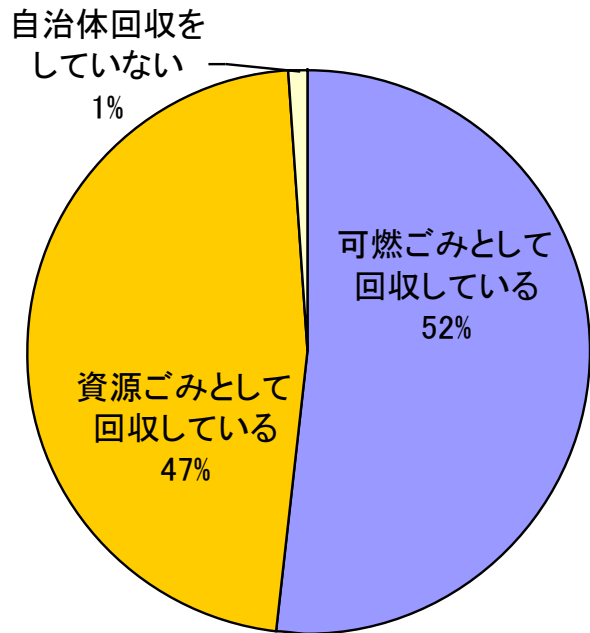
下の円グラフは、平成 20 年度に四国の自治体を実施したアンケートの結果です。  
四国では、ほぼ半数の自治体で「家庭から出る衣類」は「可燃ごみ」として燃やされています。

愛媛県の場合、平成 22 年 6 月 5 日時点で、衣類を「資源」として回収しているのは 7 自治体に過ぎません。

愛媛県内で資源として回収している自治体 (20 自治体中 7 自治体)

- ・ 松前町
- ・ 四国中央市
- ・ 今治市
- ・ 伊予市
- ・ 八幡浜市
- ・ 砥部町
- ・ 伊方町

平成 22 年 6 月 5 日愛媛新聞の再調査より



「四国環境パートナーシップオフィスアンケート」  
(平成 20 年 8 月実施)より

日本では、年間約 100 万トンの衣類が廃棄され、その 90%が「可燃ごみ」として焼却されています。(次ページ「平成 16 年版循環型社会白書」参照)

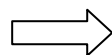
松山市でも、年間 4,000~5,000 トンの衣類が「可燃ごみ」として焼却されています。

衣類の中でも化学繊維は燃やすと、倍の重さの二酸化炭素を排出します。

(温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver. 2.3 / 平成 20 年 5 月 環境省・経済産業省より)



化繊のセーター500g



燃やすと

約 1kg の CO<sub>2</sub> が発生 = 直径 22cm の風船 × 約 64 個分



## <参考資料>

### 【平成 16 年版 循環型社会白書】

#### 第 1 章 廃棄物等の発生、循環的な利用及び処分の状況

##### 第 1 節 我が国の物質フロー 3 循環的な利用の現状

###### (12) 繊維製品

繊維製品については、一般廃棄物、産業廃棄物合わせて 207.6 万 t が排出され、そのうち 25.9 万 t が回収され、うち 16.7 万 t が反毛（古着等をほぐして綿状にしたもの）やウェス（工場用油拭き雑巾）にリサイクルされたり、古着として輸出されています（平成 11 年度）。主な回収ルートとしては、地方公共団体の分別収集、集団回収及び回収事業者（ちり紙交換業者等）によるものが挙げられ、近年では、繊維事業者が回収することに加え、販売店等が下取りとして引き取る動きも見られます。これら回収された故繊維や工程繊維くずがリサイクルに回っています。

繊維製品のうち、衣類については廃棄量の統計が存在しないため、正確な数字を把握することは困難ですが、繊維消費量や繊維工程くずの量、及び輸入・輸出货量等から年間 100 万 t 程度と試算されています。また廃棄された衣料品のうち、古着として 8.2 万 t（平成 12 年貿易統計）が海外に輸出されており、他にも、反毛やウェスとして再生利用されています。

カーペットについては、平成 14 年の生産量（敷物合計）は、8,274 万 m<sup>2</sup>（平成 14 年繊維・生活用品統計年報）となっており、主に家庭用、事業者用、自動車用に利用されています。

処理段階においては、一般家庭から粗大ごみとして排出されたカーペットは地方公共団体により焼却等の処理が行われ、また、事業系から産業廃棄物として排出されたものは産廃業者により焼却又は埋立処分されています。主要な排出源である家庭で用いられるカーペットは、引越し時まで使用されている例が多く見られ、衣料品など他の家庭向けの繊維製品に比べてかなり長期間使用されているものと見られます。

カーペットは、その製品特性により、何種類もの基布構造物等があり、特に展示会用の大きなものや、オフィスビル用の重量物などの処理困難性は高くなっています。また、その循環的な利用の促進に向けては、事業系のカーペットを中心に、排出時にメーカーが引き取り、リサイクルを行っている例も見られます。例えば、引き取ったカーペットを原料に、産業用フェルトなどに再生利用する事例や、ポリエステルやナイロンなど単一素材で構成されるカーペットを供給するとともに、これを回収して、カーペット原料へのマテリアルリサイクルや RDF（ごみ固形燃料）化によるエネルギー利用を図る取組が見られます。

ふとんの平成 14 年における生産量は、768 万枚（平成 14 年繊維・生活用品統計年報）となっています。廃棄物として排出される量は統計上明らかではありませんが、平成 11 年度に東京都（23 区）が行った粗大ごみの回収量は約 41 万枚で、各家庭からの排出がほとんどを占めており、地方公共団体等により回収された後、粗大ごみ、あるいは可燃ごみとして、焼却・埋立処分されている状況です。

ふとんの有効利用方法としては、従来、寝具販売専門店などを中心に「打ち直し」による再使用が行われてきましたが、近年ではライフスタイルの変化や量販店の進出などの影響もあって縮小傾向にあります。他方、新たな取組としては、ふとんメーカーが素材繊維メーカーとの共同企画として、対象商品（ポリエステル等）を有償で回収し、RDF 化してサーマルリサイクルを実施している例も一部で見られます。

私たちの暮らしの基本である「衣」「食」「住」のうち、「食」には「食品リサイクル法」、  
「住」には「建築リサイクル法」がありますが、「衣(類)」には、リサイクルするための特別  
な法律はなく、もっとも遅れている分野とされています。

松山市では、衣類は「可燃ごみ」ですが、今、新しい取り組みが始まろうとしています。

それは、

家庭に眠る衣類(古着)を燃やさず資源化することでの「地球温暖化防止」を実現するため、家庭、地域(公民館)、NPO、障害者共同作業所、企業、自治体の連携の下、「衣類の3R」のしくみを構築する。

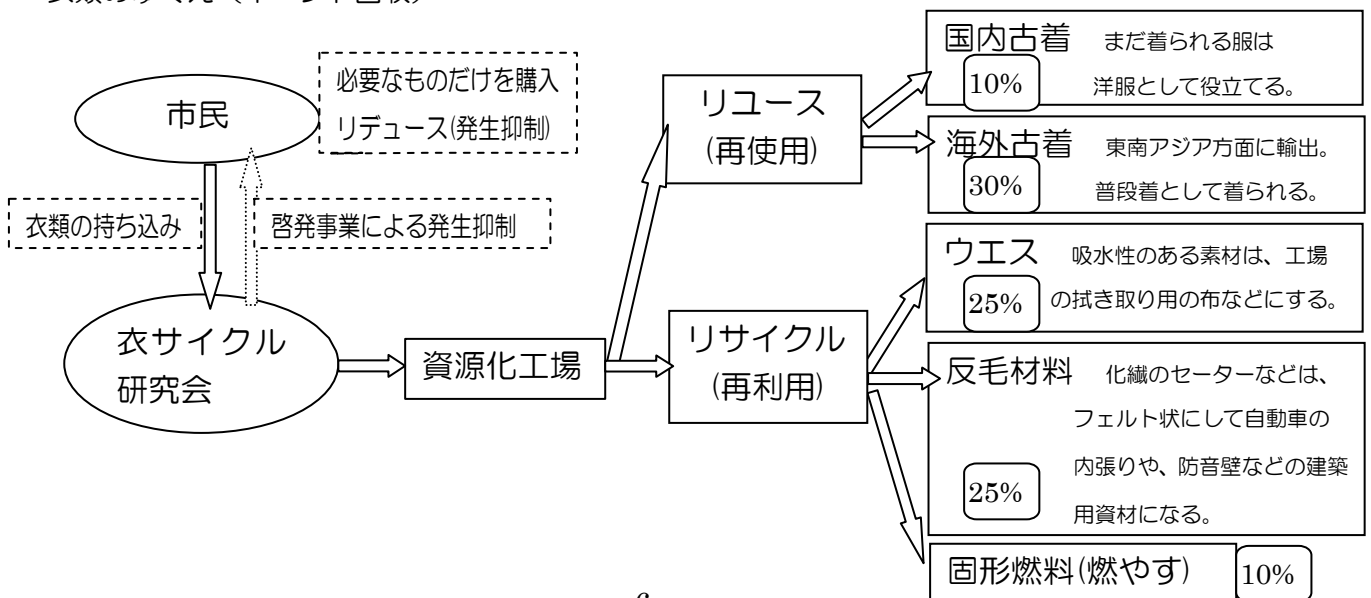
- ・家庭 →約 22 万 7 千世帯(松山市民約 51 万 5 千人)
- ・地域 →公民館(5 地区 ※増加中)
- ・NPO →衣サイクル研究会
- ・障害者共同作業所→ハートフルプラザ運営委員会
- ・企業 →(有) 田代商店(香川県観音寺市)
- ・自治体 →松山市(環境政策課・障害福祉課)

というものです。

今日は、「可燃ごみ」として「燃やす」以外の「衣類のゆくえ」を見ていきます。

<参考>

衣類のゆくえ(イベント回収)



# 「衣類のゆくえ」

## ＜松山での状況＞

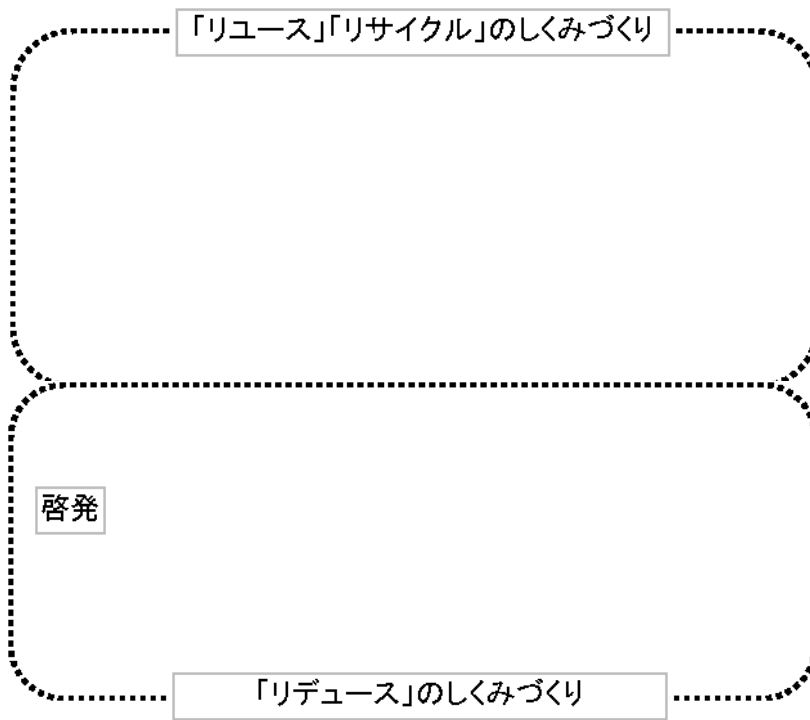
- ① 公民館に持ち込まれた家庭からの衣類は、松山市障害福祉課によって市の施設を利用した「ストックヤード」に集められます。

## ＜参考＞

松山市内の衣類の回収場所

回収場所	回収日	電話番号	所在地
松山市役所別館 1階 障害福祉課	常時回収 ※8:30~17:00まで	089-948-6353	松山市二番町四丁目7-2
生石公民館 -7-	常時回収 ※8:30~17:00まで	089-971-2975	松山市高岡町860-67
久枝公民館	毎月第4月曜日 ※8:30~17:00まで	089-924-8628	松山市西長戸町229
八坂公民館	毎月第4水曜日 ※10:00~15:00まで	089-921-2231	松山市三番町一丁目3-2
由良公民館(興居島)	常時回収 ※8:30~17:00まで	089-961-2932	松山市由良町1048-2
堀江公民館	毎月第4月曜日 ※8:30~17:00まで	089-979-3596	松山市堀江町甲1400-1

※公民館での回収は、地区の方を対象としております。地区以外の方は、松山市障害福祉課に持ち込みをお願いします。





- ② 月に1回を目安に、イベント回収に合わせて、資源化工場のトラックにより、ストックヤードの衣類が回収されます。  
(4トン車に2トン~3トン積みこみます。)



### <工場についてから>

- ③ 衣類は資源化工場のストックヤードに積み上げられます。
- ・ どれぐらいの量があるのでしょうか。
  - ・ 値札のついたままの衣類がないか見てみましょう。
  - ・ 本当に「ごみ」なのでしょうか？



約 300 トンの衣類→

#### ○衣類の保管

- ・ 一番困るのは、濡れたもの。ナイロン袋に入れて出してもらうようお願いしている。  
(実際は、ひもでしばったものや、そのままむきだしのものが多い)
- ・ 松山市、新居浜市など愛媛県から増えておりありがたい。  
愛媛の人は、衣類への思いが強いように感じている。

Q: 今現在のこの量(300 トン)は、どれくらいで処分しますか？

これくらいだと1カ月で空っぽになる。

Q: 年間で変化がありますか。

多いのはやはり衣替えの時期。なので、夏には冬物、冬には夏物が多い。

Q: このストックヤードで保管できる量は？

ここいっぱい詰め込んだとして、約 800 トン

Q: 働いている人の数は？

80人近くが働いている。

Q: 勤務時間は？

1日8時間

#### ④ 一次選別

- ・ベルトコンベヤーに載せられた衣類は人の手で分別されます。

- 袋から出す
- おおまかな分別  
(ベルトコンベアで、色、素材などで分ける)
  - ・8～10人が1人5～6種類ずつ、計約40種類に分別
  - ・ワイシャツ等も白物、色ものに分ける。



#### ⑤ 二次選別

- ・さらに細かく分別されて行きます。
- ・どんな分け方をしているのか見てみましょう。

- 細かい検品・選別
  - ・衣類の色・種類、年齢層、シーズンなどでさらに細かく分ける。
  - ・1枚ずつ、汚れや破れがないか確認する。
  - ・海外向け、国内向けにも分ける。国内物は東京、大阪等へ送る。
  - ・羊毛、固形燃料に回すものも、ここで選別



#### ⑥ 海外古着の梱包

- ・機械で圧縮して梱包していく様子を観察してみましょう。
- ・1つの梱包の重さは何kg?

- 圧縮
  - ・海外向け、国内向けにわけて、圧縮し、ひもや針金でしばる。
  - ・機械に衣類を押し込み、圧縮したものをしばり、転がして計量・リフトまで運ぶのは手作業

Q: 圧縮の力は?  
2トン



## ⑦ ウエスの製造

- ・衣類から金具・ボタンなどを取り除きカットする様子を見てください。
- ・下のマークは何でしょう？ ウエスの袋で探してみよう。（愛媛にもあります。右側）



### ○機械を拭いたりするウエスを製造

- ・ボタンや金具などをのけ、要望に合わせた大きさ、色、切り方で約 20 種類に分ける。
- ・重さ（1 kg～）や梱包（布で包む、ポリ袋に入れる、段ボールに入れる、など）もお客の要望に合わせる。
- ・香川県のリサイクル製品認定をもらっている。

Q：マーク(下記)はどこに？

- ・包装の袋や段ボールにつけている。

Q：どういうところに使われているか。

- ・機械やリフトなどをふいたり、造船会社からの注文もある。



香川県認定環境配慮モデル



愛媛県資源循環化優良モデル

環境への負担の少ない循環型社会を形成していくためには、廃棄物等の発生抑制やリサイクルを推進するなど、環境への負荷を低減していくことが重要です。

香川県では、こうした環境配慮の観点から他の模範となるようなリサイクル製品や事業所を、「モデル」として認定し、そのPR等バックアップを行うことにより、リサイクル製品の普及や事業者等の環境配慮行動の促進を図る「香川県環境配慮モデル認定制度」を、設けています。

～香川県 HP より～

## ⑧ 倉庫での保管

○40～50トンの在庫があり、月1000ベールをコンテナに積んで海外に送る。

- ・海外は主に東南アジア（タイ、フィリピン、マレーシアなど）アフリカや韓国にも。
- ・主に夏物中心で、「Tシャツ〇本」というように、注文が来る。  
日本の下着も人気がある。
- ・40フィートのコンテナに積む。

Q：ベールとは？

梱包してある1包みを1ベールとか1本と言う。

Q：40フィートのコンテナにはどれだけ入るのか？

大体240本で24トン。20フィートのコンテナの場合はその半分近く。

Q：衣類を出す人についてどういう印象をもっているか。

自分の衣類に思い・愛着を持っている人が多いように感じている。



## ⑨ 反毛原料

- ・リユースできず、ウエスにもならない衣類のゆくえを見てみましょう。

○反毛原料（車の内張り、防音材、保湿のための芝生の下敷などに使うフェルト状のものを反毛という。ここにあるのは、その原料）

- ・年間3000tの持ち込みがあるが、その内、リサイクルしにくい冬物衣料やスーツなどを反毛原料として、専門業者に送る。
- ・黒、白など色別にまとめてあり、使われる車種のグレードが違う。

（「黒 190」とあるのは、色とkg）

Q：どこから来ていますか？

中四国 自治体から来るものも、個人の持ち込みもある。

Q：出してだめなのは？

寝具、クッション、濡れているもの、汚れがひどいものなど。  
基本的には、「タンズにしまえるもの」とお願いしている。



⑩ 国内古着の販売準備

- ・どのような衣類がリユース可能なのでしょうか。



⑪ 固形燃料

- ・どのようなものが固形燃料になるのでしょうか？
- ・「燃やす」ので CO2 が発生します。でも、環境にやさしい理由があります。何でしょうか？

○コボロ（規格外、よごれのひどいものでリユースできないものをそのまま固形燃料に加工）

Q：漢字は？

そのまま「コボロ」と書いています。

Q：固形燃料というのは？

炭などの代わりに製紙会社などのボイラーで使う。

石炭の代替燃料として使われることで、「化石燃料」の使用を減らす。

<その他>



今回の「バス研修」には、地元テレビ局が同行し、その様子がその日の夕方のニュースで流れました。

参考

参加者の応募理由など（抜粋）

応募の動機や希望
地球も大変なことになりつつあるので、勉強し、小さな事からでも、1人1人が努力し地球を守りたいので。
毎年、宿題の自由研究に頭を悩ませております。衣類のリサイクル・リユースの現場を見学できて、説明などを聞かせていただき、親子で「地球温暖化」について考えるいい機会になると思いました。
衣料リサイクルに興味があるから。
物を大切にしなければいけないことを子どもが実感してくれれば良いなと思い申し込みます。
今年の自由研究に子どもたちが、ぜひ参加して勉強したいと言っています。自分たちの目で見て知ると言うことを見せてやりたいと思い応募しました。
衣類のゆくえがどうなっていくのか、なかなか知ることができませんが、今回めずらしく研修があり、参加して学びたいと思いました。
うちにもたくさんのお古着があり、可燃ごみに出したりしていました。今回これを機に衣類の再生について考えてみたいと思いました。
衣サイクル研究会のHPとか見てとても興味を持っていました。4年生の子どもが、ちょうど社会の授業でリサイクルについて勉強していたので、実際見てみたいと思います。
自分で着ている服がどうなるのか興味津々みたいです。
学校の自由研究のため、ぜひ参加させてください。親子で学んでみたいと思います。
合わなくなった子ども服や亡くなった父のスーツ、服が大量にあり、かなり捨てたり雑布にしたりしました。リサイクルショップでブランドものじゃないと突き返されたり・・・ぜひリユース、リサイクルの方法を知りたいと思いました。（弟は2年生）
子どもと勉強しながら夏休みの思い出を作りたいだったので。

●33組(79名)の応募があり、そのうちの18組42名が参加しました。

# 「衣類のゆくえを知る親子バス研修」アンケート結果

40回答

## ●日程・時間

(35) ちょうどよい (4) 長い

(1) その他(見学を多めにして欲しい)

## ●内容

・見学 (27) ちょうどよい (1) 多い (2) 少ない

(23) わかりやすかった (6) むずかしかった

・研修 (1) 簡単だった (11) むずかしかった (25) ちょうどよい

・全体 (29) 参考になった (17) 楽しめた (1) つまらなかった

( ) その他( )

・レポート (5) 完成した (33) 未完成

・仕上げのサポート (6) してほしい (29) 自分で仕上げられると思う

●着られなくなった衣類は、どこに行ってもどのようにされるのかがよくわかったので、自由研究で活用していきたいです。

●とてもわかりやすく、ていねいにおしえてくれました。完せいはしなかったけど、家でやりたいです。

●工場の見学の時にマイクの声が小さくて聞きとれにくくわかりづらかったが、後からフォローの研修があったのでいろいろ質問できてよかった。

●衣類もリサイクルできると今回初めて知りました。普段、見ることのできない工場見学は勉強にもなり楽しめました。近くの公民館では残念ながら回収がないので市役所を利用したいと思います。

●衣類がどのように活用されているのかがよくわかった。

●私は服がどこへ行くのかがわかりませんでした。しかし今日、工場を見学してみると衣類の謎が分かりました。3Rは知っていたけれど、リサイクルに3つのリサイクル方法があるのは知りませんでした。衣類をリサイクルするのにたくさんの方がいて、いろいろな機械があるのには正直びっくりしました。リサイクルショップに行っても本当にこれがリサイクルしたもの?と思いました。勉強になりました。

●今回の研修ツアーに参加でき、子どもに対し衣服の「これから」を教えられるとオモウ。リサイクルを通じ地球問題である「かんきょう」に一歩ずつでも興味を持ってくれたと思います。ありがとうございました。

●衣類の処分に今まではリサイクルショップに持ち込んだり、乳児院へ寄付したりしていましたが、ほとんど可燃ごみに出していました。今日、見させて頂いて、布や繊維原料まで、ほとんど捨てずに何かに利用できると知り驚きました。これからはゴミに出さず市役所に持って行きます。あと、自分ちでもTシャツを車ふきにしたり、布ふきに切って使っていますが、造船の企業がその為用にウエス布を買っていると知って、ちょっとびっくり。

●今日はありがとうございました。小3ではレベルが高いけど楽しかったです。今日からエコな暮らしをしたいです。わかったことは工場で見学していることです。

- 衣類のゆくえを知る親子バス研究では、いい見学になったと思いました。むずかしいこともいろいろあったけど、参考になったと思いました。レポートはまだ未完成だけど完成は、あと少しなのでがんばりたいと思います。そして、固形燃料の中にプラスチックや反毛原料・ウエスなどいろいろなことがわかってよかったと思いました。
- 工場では見学させてもらって、服の再利用の種類もいろいろあるんだなぁと思いました。驚いたことは、汚れたものなどもウエスなどにできることです。あと、服の山にはびっくりしました。嬉しかったのは中学生でもちょうどいいくらいのレベルだったことです。リサイクル（古着）の店では、リラックスして見学を楽しむことができました。貴重な体験ができて良かったと思いました。
- 説明の方が早いので、書くのが大変だった。
- 障害者共同作業所なども見学できればよかったと思いますが、良い勉強になりました。3Rを進めることは良いと思いますが、デメリットなども勉強したいと思います。本日はありがとうございました。
- 衣類は、リサイクルなどができると知りました。3Rは知っていたけど、4Rや5Rまであってとてもびっくりしました。工場見学は暑かったけど、とてもためになる話や、なるほどと思える話などをしていただいたので、とても楽しかったです。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ぼくはとても楽しいと思った。工場の人説明もわかりやすく、とてもいい1日になった。自分の家にも着ていない服がたぶんでてくるのできかいがあれば持って行ってリサイクルしてもらいたいと思う。
- 衣類のゆくえがよくわかり、今後の生活に意識づけて過ごしていきたいと思いました。夏休みの研究のいいヒントができ、ためになりました。
- Reの色々なことがわかってよかった。衣服のリサイクルなど色々なことがわかってとてもよかった。
- 時間に追われて説明を聞いて書きとめるのが大変でした。小4の子には難しい感じでした。田代商店さんの方に親切に答えて頂いた事がとても良かったです。
- 子どもを対象にしているわりには、少し高度だったと思う。（短時間での詳しい説明は難しいと思いますが・・・）後のフォローがきちんとして頂ける様で助かります。大人には分かりやすくいい勉強になりました。
- とてもよく、リサイクルのことがよくわかりました。これからの勉強にやくだてていきたいです。
- とてもよくリサイクルのことがよくわかった。
- 今日はたいへんお世話になりました。子供達も見学の時は「へえ」と見ているばかりでメモを忘れてしまう事もありましたが、みなさんのサポートのおかげで助かりました。また帰ってから子供達と今日の事を話し合います。ありがとうございました。
- 子供服は人にあげたりバザーに出したりしていましたが、綿素材以外は可燃ゴミとしてほとんど捨てていました。衣類が資源として利用できることを知り、今後は他の資源ゴミと同じ感覚で分別しようと思いました。
- 工場見学で、今まで分からなかった衣類のリサイクル方法が分かったので良かったです。3Rだけじゃなく4Rもあるんだということがわかりました。
- わかりやすくせつ明してくれたので、さん考になり、とてもよくできたと思います。服の山はほんとにびっくりしました。私の高さより高いので服がこんなにあるとは思いませんでした。私の高さより何倍もありました。



- まず、ストックヤードの衣類の山に圧倒されました。1枚数千円出して買ったであろう衣類が不用物として出されるのを見ると日本って豊かなんだなと、つくづく感じます。今まで不用になったユニクロ製品はユニクロに回収に出したり、まだ着られるものはオフハウスに持ち込んだりしていて、極力ゴミに出さないようにしていましたが、まだまだ不用な衣類はあります。公民館に常時回収を言ってみたいと思います。
- 今日は1日ありがとうございました。わたしが今日の見学でおどろいたことは、一次選別で40種類に分けられた後に、160種類というふうにとても多く分けられていることです。たくさん分けられていることによって、「リユース」と「リサイクル」が得意やすくなるんだなと思いました。この親子バス研修に参加して本当によかったと思います。またこのような体験があったら、参加してみたいと思います。本当にありがとうございました。
- 不用な衣類の多さを改めて実感し、リユースやリサイクルの分別のタイヘンさを知りました。リデュースの大切さをわかりながら、それを実行することがまだまだできていなことを十分意識づけられました。今後自分なりに努力していきたいと思いました。「もったいない」ということをもっともっと考えなければならぬと思いました。今回のツアーでは、いろいろなことを詳しく説明していただきありがとうございました。
- 私はサイズがあわなくなった服もいっぱいあり困っていました。けれど、ゆくえを知れたのでとてもよかったです。
- すごく分かりやすかったです！ チョ～楽しかったです。自由研究の参考になりました。私にとっては、すごくたすかりました。もうちょっと工場のこと知りたかったなあ。質問したらちゃんと答えてくれたので、助かりました。また行きたいです。今日はありがとうございました。
- 今日はとても勉強になりました。ただ、大人でも理解するのがやっとな感じなので、子供には難しかったのではないかと心配しています。でも、きっかけを与えていただいたので、家でゆっくり勉強していけたらいいなと思います。
- 衣類のリサイクルと言うと、店に持ち込んで買い取ってもらうぐらいしか知りませんでした。当然のように可燃ゴミとして処分していました。今回の見学を通して松山市も衣類を資源ゴミとして回収する方向に向かっているようだと思いました。自分の地区の公民館はまだ回収していませんが、衣類回収のイベントなどに参加して、不要になった衣類はただのゴミにせず、何かに生まれ変わってもらえるようにしたいと思いました。今日は大変勉強になりました。いろいろとお世話になり本当にありがとうございました。
- 今日はとても勉強になりました。今まで衣類は可燃ゴミという知識で、もったいないと思いながらもゴミとして処理していました。「衣類のゆくえ」がはっきりと分かり、1枚1枚の衣類を最後まで使いきり、無駄なく上手に処理していくシステムができているのに驚きました。衣・食・住、どの分野も循環型社会に近づくように、私自身も考え直すいいチャンスになりました。今日は貴重な研修に参加させていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。
- 大人向けの研修としては良いと思います。子供向けとしてはむずかしいと思います。（対象をはっきりさせた方が良いかも）実際に工場見学させて頂き、将来に向けて、今すぐ出来る事、これからすべき事が見えました。環境保護、CO2削減に向けて様々な角度から考え、実行して行きたいと思います。

- セーター500gをもやして出るCO<sub>2</sub>の量は1kgで直径22cmの風船が約64個分ときいてびっくりしました。
- 回収された衣類が、どのようにリサイクルやリユースされるのかが現地（工場見学）を見ることで、子供の目にもわかってとても良い企画だったと思った。まだまだ衣類回収率が低いようなので、これからもっと回収率が上がり、ゴミと出されてCO<sub>2</sub>が多量に発生していかないようになっていけば良いなと思った。また家に眠っている衣類も回収へと持っていきたい。今日はありがとうございました。
- バスに乗って行くきかがないので、すごく楽しめました。
- 普段見られない所へ連れて行ってもらい、丁寧にわかりやすく教えて下さり感謝です。着られなくなったと簡単に捨ててしまう衣服の行く末を見て、いろいろ考えさせられました。工場の方々も全部手仕事で大変だと思い頭が下がります。
- 服は燃やさずに（ゴミに出さずに）こうやってリサイクルしていくことは大切なことだと思いました。松山市でもぜひ衣類の日（曜日）としてプラスチックや紙などと同じように家の近くで、いつものゴミのように回収し、ちゃんとリサイクルして行ってほしいです。

参加者名簿

		名前	学年
①	1	植本 アイ子	
	2	航平	小 5
②	3	江川 文也	
	4	さつき	
	5	大智	中 1
③	6	千晶	小 4
	7	岸上 敏夫	
④	8	唯香	小 5
	9	高橋 信也	
⑤	10	礼美	小 5
	11	松本 静江	
⑥	12	葵	小 6 年
	13	兵頭 真紀	
	14	和真	小 5
⑦	15	和弥	小 4
	16	高橋 なつみ	
⑧	17	由真	小 4
	18	西山 真理	
⑨	19	奈々	小 6
	20	渡部 彩子	
	21	紗予	小 5

⑩	22	古田 美保	
	23	裕青	小 5
⑪	24	日高 良子	
	25	麻理乃	中 1
⑫	26	沙耶乃	小 4
	27	池田 宏之	
	28	ちずる	
	29	泰盛	小 6
⑬	30	聖良	小 4
	31	山ノ内 操	
	32	勇斗	小 5 年
⑭	33	未夢	小 3
	34	鵜久森 高弘	
⑮	35	泰弘	小 6
	36	新家 里奈	
⑯	37	宝珠	小 4
	38	田崎 京子	
⑰	39	陽大	小 6
	40	大森 八重美	
⑱	41	太貴	小 5
	42	矢間 美智子	



衣サイクルホームページ



衣サイクル研究会ブログ

衣サイクル研究会

〒791-8086 松山市辰巳町 1 番 8 号

サーパス三津吉番館 205 号

TEL 090-9557-7594、FAX 089-952-5827

E-メール e-cycle@kfx.biglobe.ne.jp

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~e-cycle/>